

平成30年9月議会(議案質疑)

福岡市観光振興条例について (宿泊税)

福岡市における入り込み観光客数の推計は2016年に初めて2,000万人を突破しています。本市も、これまで毎年一般財源から観光政策へ多額の予算を投入していましたが、少子・高齢化社会の進展による社会保障額の増嵩など、その確保が困難になる可能性もあります。

そのため本市経済の健全な発展及び市民生活の向上に寄与する観光振興を着実に推進していくため9月議会において、財源を「宿泊税」と定めた「福岡市観光振興条例」を議員提案させていただきました。私は提案議員を代表して答弁しました。

Q 〈田中しんすけ議員〉市が取り組むべき施策について、提案者としては具体的にどのような施策が展開されることを想定しているのか、提案者となられた議員の方の意思をお尋ねします。

A 〈平畑〉観光関連産業における経営人材の育成や飲食、サービス業においてゲストをおもてなしするスタッフの充実などの観光産業の人材確保・育成、キャッシュレス化の推進、IoT活用の推進を想定。観光施設等における多言語表記、トイレの洋式化などの海外からの旅行者対応、市内の回遊性向上、アジアとの交流などにより培われた福岡市の歴史や伝統文化、風光明媚な自然など、地域資源を生かした魅力づくりや都市のエンターテインメント機能の充実を

想定。本市のプレゼンス向上に資するようなMICEを戦略的に誘致できるよう、組織の整備や人材の確保を行うことや新たなユニークベニユーの開発促進、スポーツMICEの振興など。違法民泊対策を含む健全な民泊の普及や旅行者への良質な宿泊施設の情報提供、旅行者増加による市民生活への影響緩和を想定しています。

Q 〈田中議員〉観光振興及び財源の確保に当たっては関係者の理解及び協力が不可欠であると考えております。関係者への説明及び意見交換は行ったのかについてお尋ねします。

A 〈平畑〉宿泊事業者のご協力は宿泊税創設に際して不可欠になると考えていることから、複数の宿泊事業者団体との意見交換をそれぞれ複数回にわたり実施。観光産業や地域経済、税制に関する複数の有識者から意見聴取を実施しました。

Q 〈田中議員〉福岡県においても県内の観光振興に必要な施策や財源の確保策などに関する検討が行われていると聞いております。そのような中で、福岡市が独自に課税する意義についてお尋ねします。

A 〈平畑〉九州のゲートウェイ都市として、また、旅行者や市民に最も身近な基礎自治体として、市民生活にも配慮しつつ、観光施策を効果的に推進していく必要があります。福岡市における宿泊税導入が必要であります。

Q 〈田中議員〉福岡市における今後の観光振興について提案議員の所見を求めます。

A 〈平畑〉今回、宿泊税という形で市内に宿泊される旅行者の方からも一部ご負担をお願いするこ

2018 8/3(金) 医療と公共交通勉強会



国道263号線(早良街道)沿線の病院(北から山王病院・福岡大学西新病院・牟田病院・福西会病院・油山病院・福岡歯科大学病院・広橋病院・白十字病院等)を結ぶバス路線の充実や渋滞解消を目指しています。今後ますます自家用車を持たない高齢者や障がい者などいわゆる交通弱者が増加するのは確実です。現在、医療費の高騰が国の最重要課題となっていますが、予防医療の充実や早期発見・早期治療により高齢者が自分らしく元気でいきいきと長生き出来る社会を目指さなければなりません。そしてその実現こそが医療費の抑制につながると考えます。

平成26年から現在まで16回の勉強会を重ねて参りました。バスが福岡歯科大学病院敷地内を通行したり、福西会病院前のバス停カットが深くなったり、信号機の調整などにより渋滞が解消されるなど少し結果が出せたとは言え、まだまだ課題はたくさんあります。今後もしっかりと取り組んで参ります。

2018 8/17(金) 国政・市政報告会

鬼木まこと代議士(福岡2区/中央区・南区・城南区)と合同で、国政・市政の現状について、ふくふくプラザに於いて、お話をさせていただきました。



2018 8/25(土) 福岡市飲酒運転撲滅大会



宿泊税論議 福岡市議会で始まる

提案側「観光財源」強調

条例案は、自民▽公明▽みらい・無所属の会▽自民福岡▽市民クラブ▽が共同提案した。提案会派を代表して、松野隆市議(公明)が観光振興条例案の趣旨を説明した。条例の目指す点について、①観光客の受け入れ環境を整備し、旅行者を増やし満足度も高め②市中心部などにおける人と車の混雑、民泊の急速な広がりに対する市民の不安解消③市経済の活性化と事業者の収益向上の3点を強調。これらを実現するために「現状の一般財源だけに予算を求めるのは限界がある」と強調し、「安定した新たな財源の確保策として宿泊税を創設する」と主張した。

博市議(自民)は「宿泊税を生かす具体的な政策の想定として、観光関連産業の人材育成、キャッシュレス化の推進、観光施設」に「西日本新聞より抜粋」

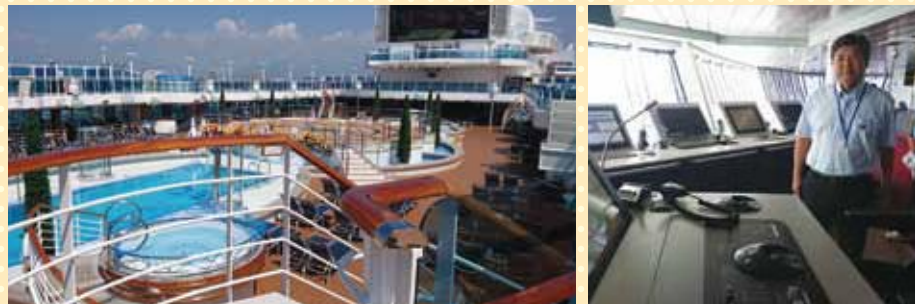
といたしました。この宿泊税の創設を市民、旅行者、事業者の方などにご納得いただくためには、頂いた税金をどのように使わせていただくか、すなわち用途、使い道が最も重要と考えております。我々提案議員は福岡市の観光等を取り巻く環境には、急増するインバウンドの方々などのための多言語対応や国内外の旅行者の方にもっとわかりやすいインフォメーションセンターの充実、交通渋滞対策、福岡市のプレゼンスを向上させるようなMICEの誘致、急増する民泊への対策など、まだまだ多くの課題があると認識しており、これらの課題に対し、しっかりと明確に対応する、すなわち税金を目に見える形で還元することが必須であると考えております。

我々がご知恵を頂戴したJTB総研の山下氏は「旅行者にとって便利で安全で快適な都市は、住んでいる市民にとっても便利で安全で快適である」と述べておられました。私どもはこのご指摘に深く共感したところでございまして、我々が目指す観光振興の在り方が示されたものだと考えております。提案者としては、旅行者、市民、事業者などにこの条例の成果を実感してもらい、この条例の目的を達成できるよう、議会、議員の立場から、今後とも、しっかり観光振興に取り組んでいく所存であります。

Q 〈川口 浩議員〉福岡市観光振興条例が今議会で成立したとしても直ちにすることを縛

2018 7/27(金) クルーズ船を視察

全長330m、幅38.4m、総乗客定員4,340人、総乗員数1,350人の大型クルーズ船「マジスティック・プリンセス」を見学しました。(博多湾停泊中)当日は乗船率100%で、4,340人が福岡に入国、宗像大社・油山牧場・福岡城跡など、105台の貸切バスに分乗し観光をされて



いました。現在のクルーズは、インバウンドに偏っていますが、今後は博多湾を発着港化して、アウトバウンドの振興にもつなげていくべきと考えます。